



トポロジの可視化

- [AutoNetkit 可視化 \(1 ページ\)](#)
- [AutoNetkit 可視化へのアクセス \(3 ページ\)](#)
- [AutoNetkit ビューのオプション \(5 ページ\)](#)

AutoNetkit 可視化

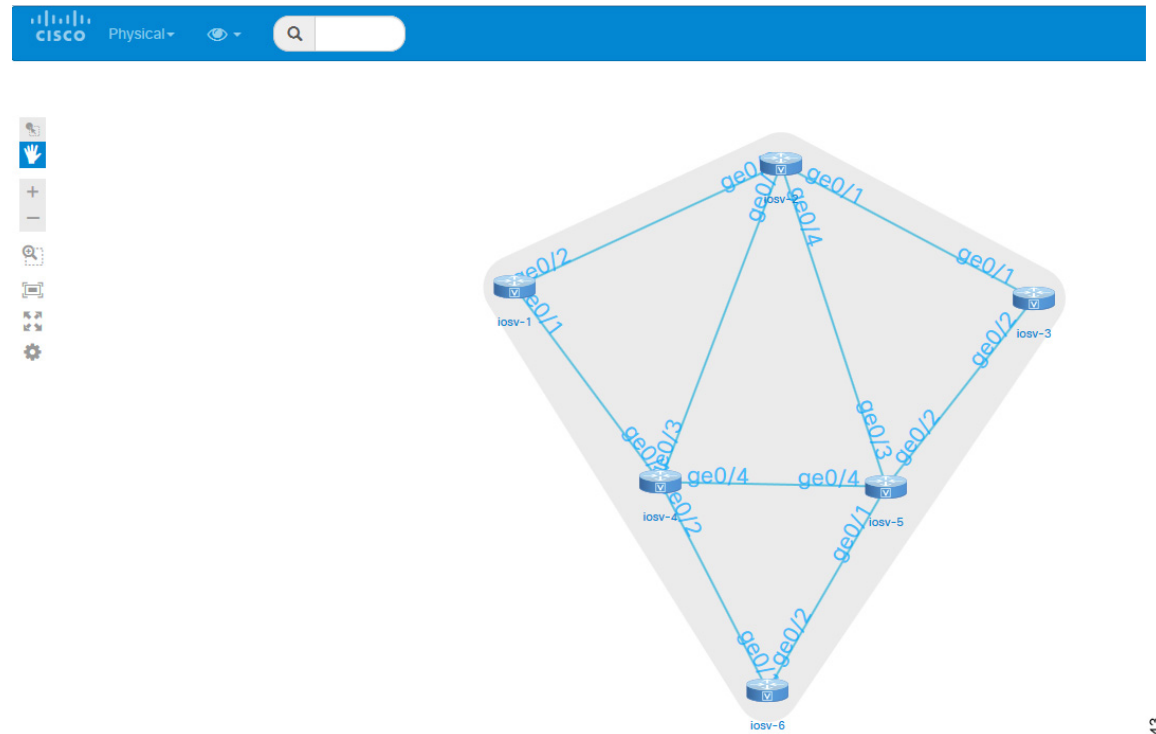
AutoNetkit 可視化フェーズでは、ルーティングプロトコル接続、自律システム (AS) 番号、Open Shortest Path First (OSPF) エリアなどのノードの相互作用を確認できます。AutoNetkit 可視化フェーズに入る前に、AutoNetkit で定義されたパラメータを使用してトポロジを設計し、ノード構成を生成している必要があります。



(注) AutoNetkit 可視化は、シミュレーションが開始される前に利用可能です。有効な Cisco Modeling Labs ライセンスは、AutoNetkit 可視化を実行するためには必要ありません。AutoNetkit 可視化は、外部 Web ブラウザでのみ表示できます。内部 Web ブラウザはサポートされていません。

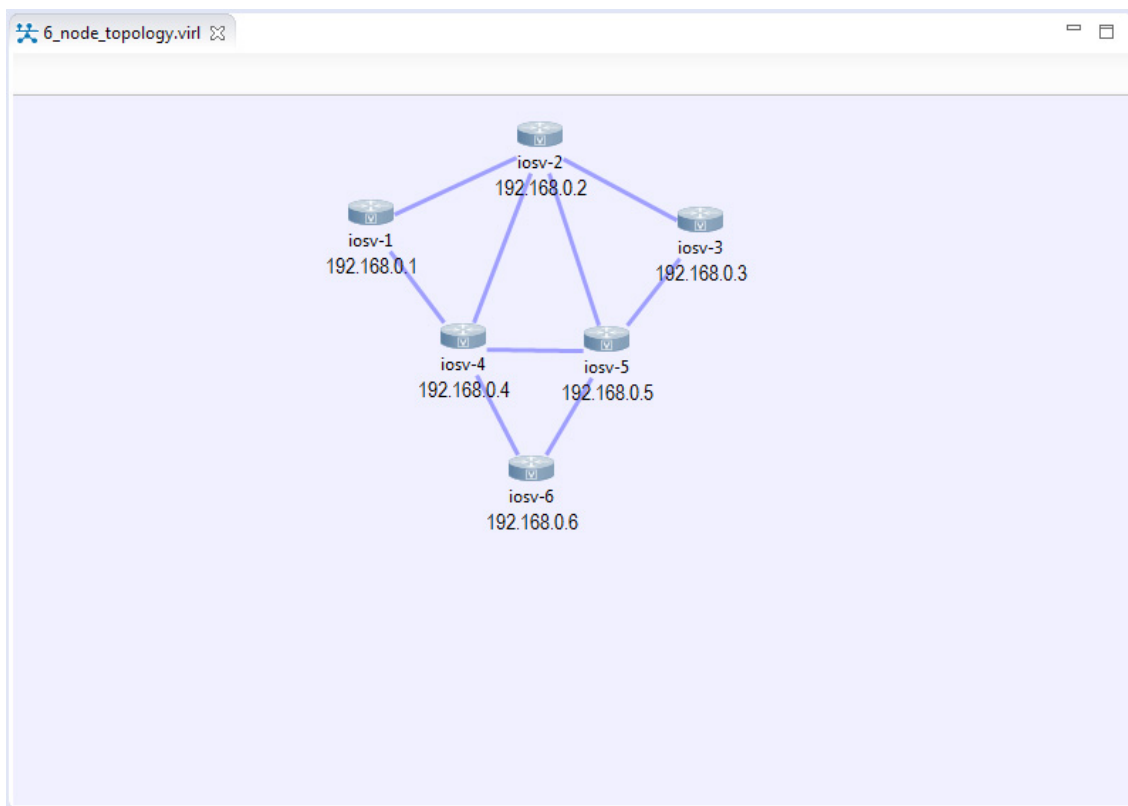
次の図は、ブラウザ ウィンドウに表示される AutoNetkit 可視化フェーズの概要を示しています。

図 1: 可視化の概要



次の図は、可視化とトポロジ設計の比較を示しています。

図 2: トポロジ設計



AutoNetkit 可視化へのアクセス

AutoNetkit 仮想化にアクセスするには、次の手順を実行します。

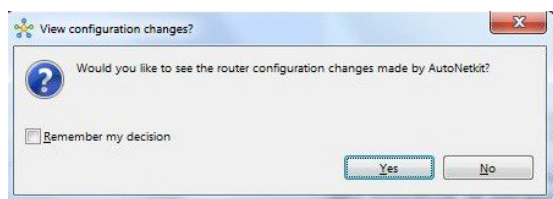
ステップ 1 トポロジの構成を生成します。

ツールバーで **Build Initial Configurations** をクリックします。また、メニューバーから **[設定] > [初期設定の構築]** を選択します。

ステップ 2 設定の変更を表示します。

AutoNetkit では、設定を生成後に通知が表示されます。

図 3: 設定変更の通知の表示

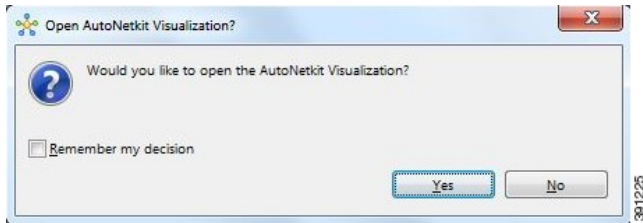


- **No** をクリックして、このステップをスキップします。
- **Yes** をクリックして、構成変更の比較表示を開きます。

ステップ 3 トポロジの AutoNetkit 可視化ビューを表示します。

比較ビューを閉じると、通知により AutoNetkit 可視化を開くかどうかプロンプトされます。

図 4: AutoNetkit 可視化を開く

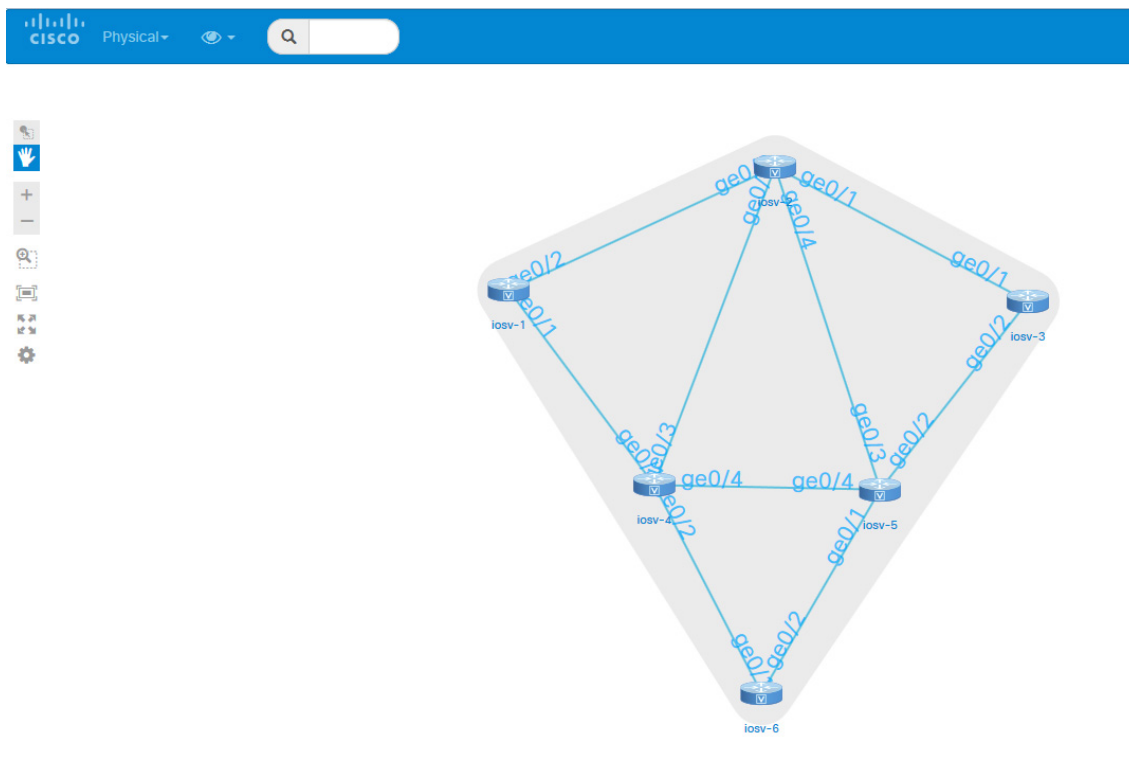


- **No** をクリックして、このステップをスキップします。
- **Yes** をクリックして、可視化を表示します。

AutoNetkit 可視化をブラウザ ウィンドウで開きます。

(注) [ファイル] > [設定] > [Web サービス] > [AutoNetkit 可視化] を選択して、可視化のプロンプトを制御します。

図 5: AutoNetkit 可視化ウィンドウ

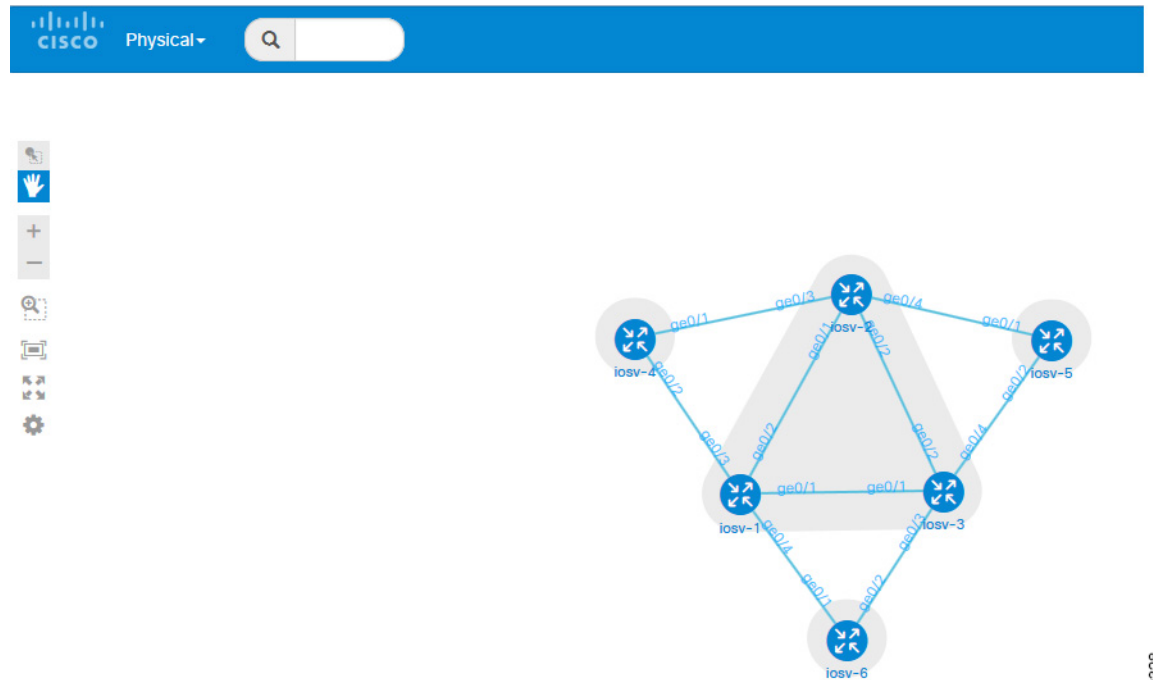


419843

AutoNetkit ビューのオプション

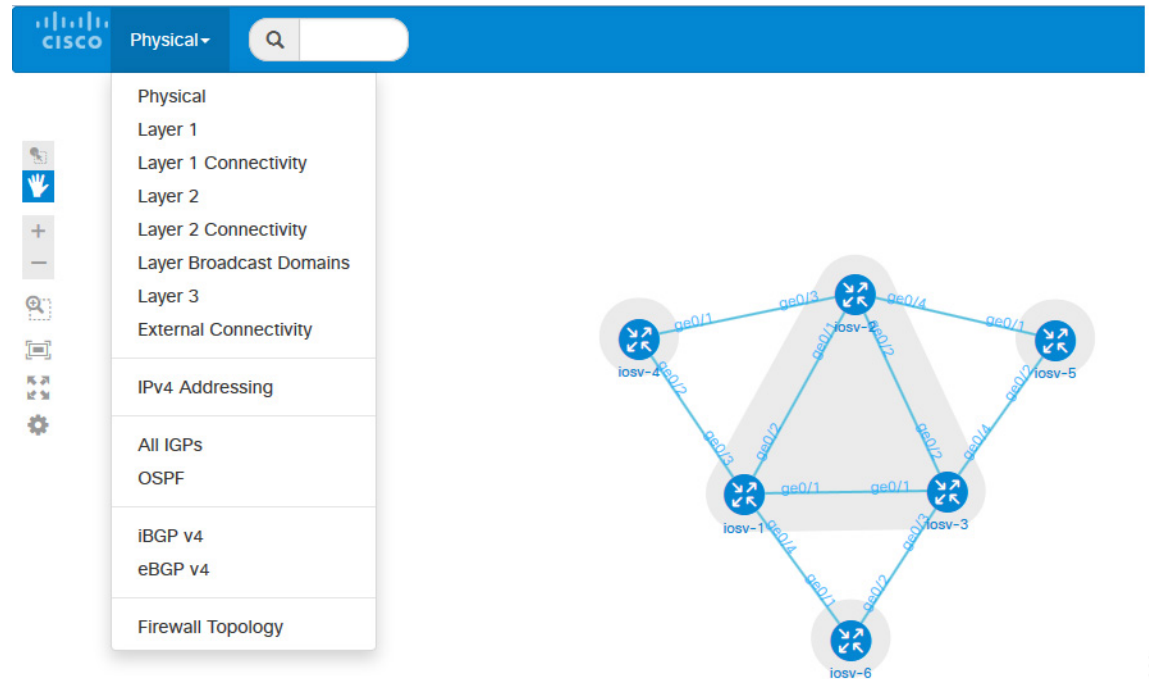
ブラウザウィンドウに表示される初期の AutoNetkit 可視化ビューは、トポロジの物理的なモデルです。物理モデルには、ノードとノード間のインターフェイスの接続が表示されます。これは、Cisco Modeling Labs のトポロジビューに似ています。

図 6: 初期のビュー



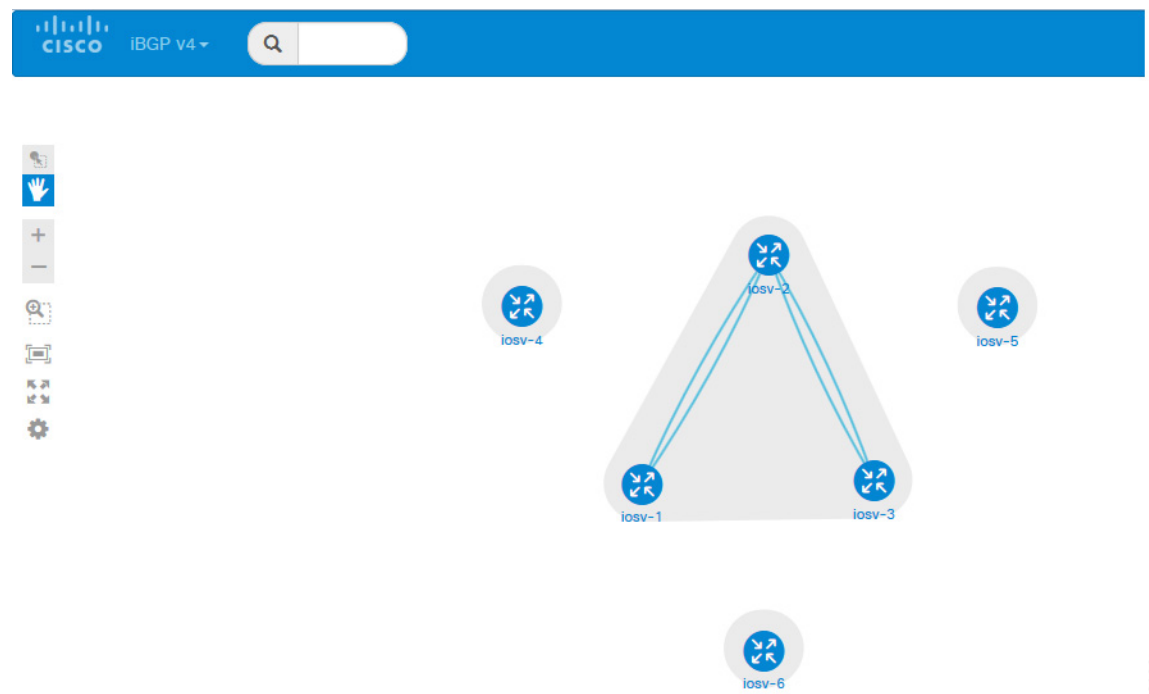
別のビューを選択するには、ブラウザウィンドウの **物理** 選択項目にカーソルを合わせます。

図 7: 利用可能なビューのリスト



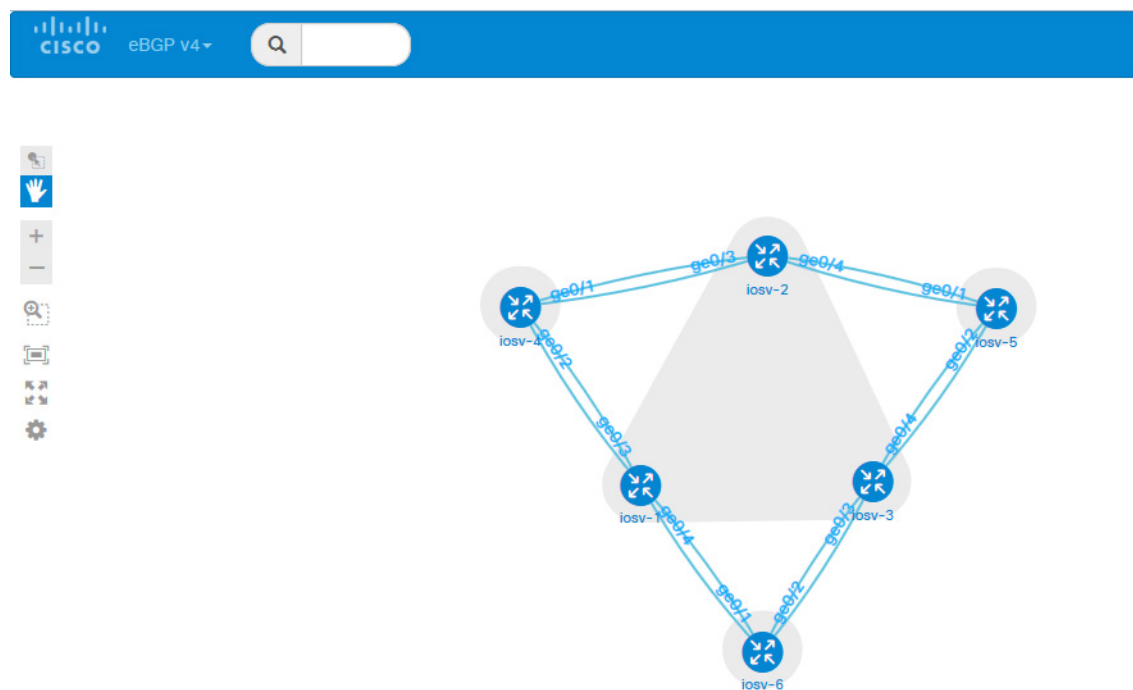
オーバーレイビューにカーソルを合わせると、いくつかの選択肢が表示されます。たとえば、**[iBGP v4]** を選択すると、IPv4 iBGP トポロジが表示されます。

図 8: iBGP v4 ビュー



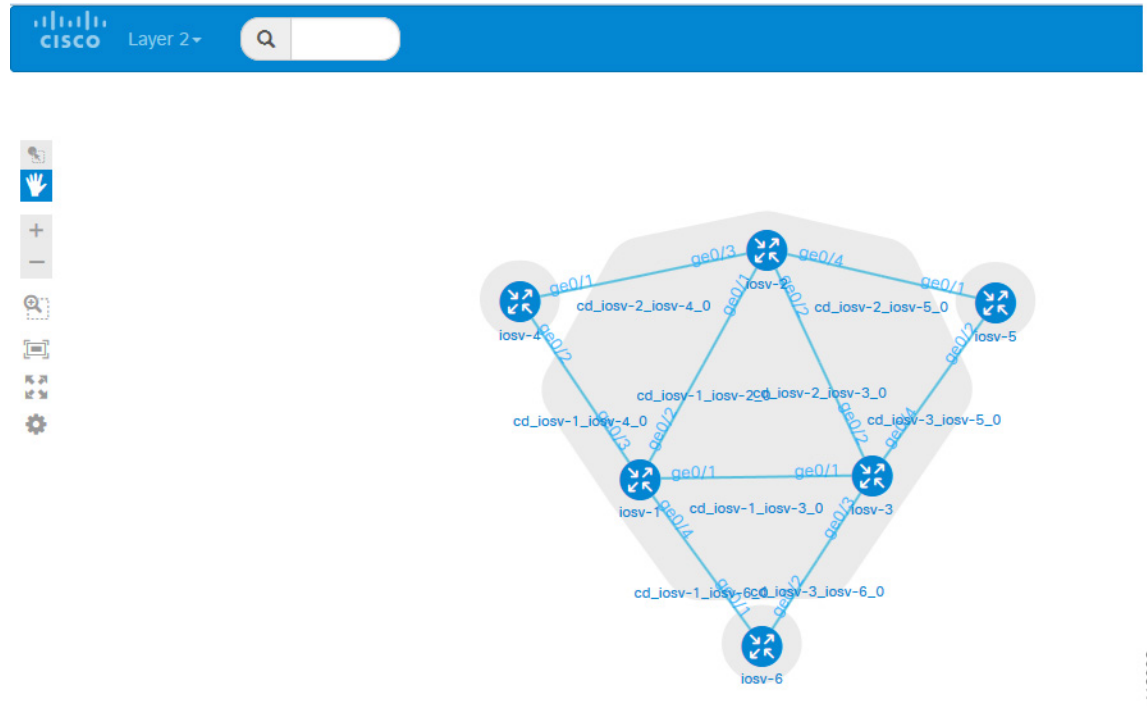
たとえば、[eBGP v4] を選択すると、IPv4 eBGP トポロジが表示されます。

図 9: eBGP v4 ビュー



たとえば、[Layer 2] を選択すると、IPv4 レイヤ 2 トポロジが表示されます。

図 10: レイヤ 2 ビュー

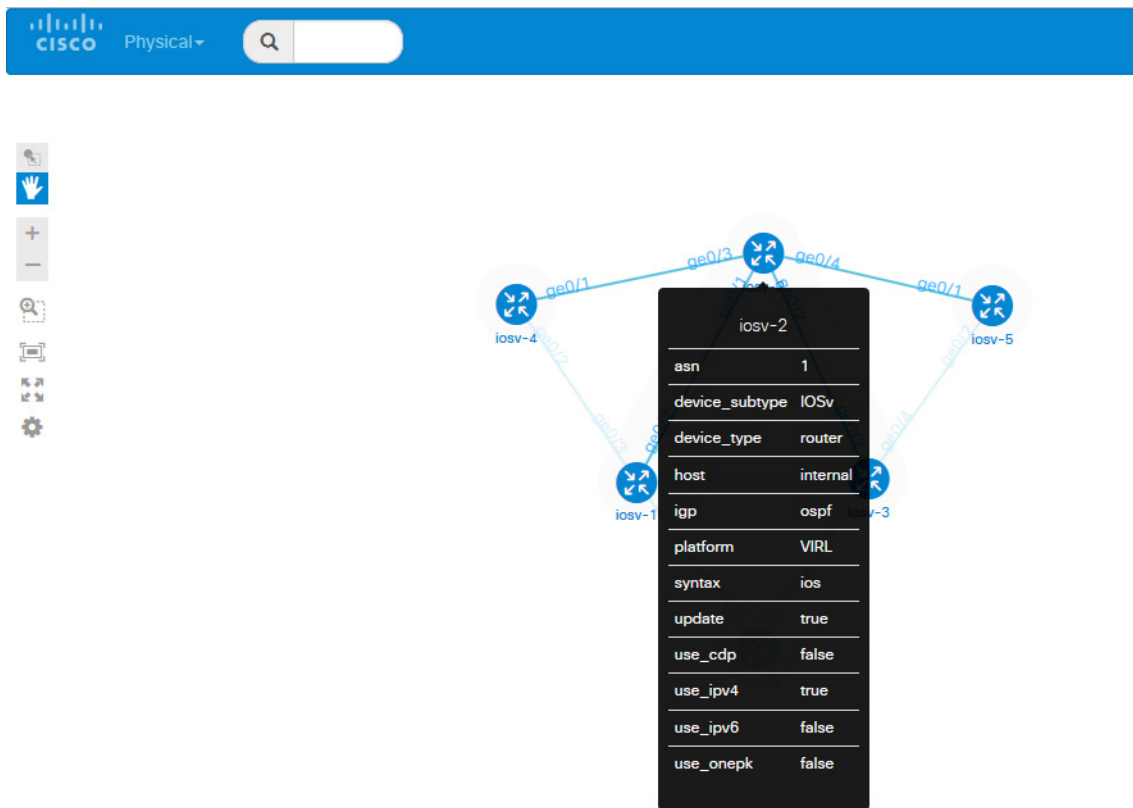


ノードのいずれかの上にカーソルを合わせると、そのノードについてのポップアップビューが表示されます。表示される情報のタイプは、選択したオプションとノードの構成によって異なります。



(注) 接続にカーソルを合わせて、接続の詳細を確認することもできます。

図 11: ノードの情報



さらに様々なプロトコルビューを選択して、プロトコルを中心としたビューがどのように変化するかを確認することができます。複雑なトポロジでは、物理ビューを使用して、プロトコル、ノード、および接続が設計要件を満たしているか確認できます。

412333

